

江戸川



前回敗戦のリベンジ成功！ 藤原菜希が江戸川初V！

8/27~9/1 男女W優勝戦

1 ① 松田 祐季 (38) 福井	① 05 212341
2 ⑤ 近藤雄一郎 (27) 東京	⑤ 16 22146133
3 ② 泉 啓文 (50) 岡山	② 13 1331221
4 ④ 岡部 哲 (49) 埼玉	④ 16 13531452
5 ⑥ 大庭 元明 (54) 福岡	⑥ 14 4542143
6 ③ 小林 一樹 (45) 山口	③ 14 513262
①⑤ 1140円(4) ①⑤② 2720円(10) 逃げ	

8/27~9/1 男女W優勝戦

1 ① 藤原 菜希 (38) 東京	① 09 21114161
2 ② 前田 紗希 (31) 埼玉	② 24 11211451
3 ③ 大橋栄里佳 (42) 福岡	③ 25 2112442
4 ⑥ 善井つかさ (34) 岡山	⑥ 24 23313233
5 ⑤ 中澤 宏奈 (36) 東京	⑤ 17 1243113
6 ④ 泉内 瑞希 (28) 岡山	④ 19 3132262
①② 280円(1) ①②③ 1130円(2) 逃げ	

9/12~18 マスターズリーグ第5戦

1 ① 中辻 崇人 (47) 福岡	① 23 23111
2 ② 山下 和彦 (55) 広島	② 17 251111
3 ④ 奈野 誓良 (48) 愛知	④ 09 1416322
4 ⑥ 谷本 幸司 (53) 愛知	⑥ 16 5321253
5 ⑤ 高橋 英之 (50) 東京	⑤ 06 14123
6 ③ 広瀬 聖仁 (58) 愛知	③ 13 323312
①② 260円(1) ①②④ 1130円(3) 逃げ	

8月27日「男女W優勝戦」は、男子も女子もイン逃げで格上の松田祐季と藤原菜希がVを飾った。松田は節間中堅少々という舟足だったが、最後まで快速・近藤雄一郎のまくりを巧く止め切り、さすがの技量を示した。「もう少しすつきり勝ちだった。江戸川4回目の優勝はやりすぎですね(笑)。切りがいい5回目を目指して頑張りたい」とレース後は笑顔で語った。女子の藤原はコンマ09の仕掛けから圧勝内容。藤原はこれが江戸川では初、今年3回目の優勝だった。「しつかり勝って良かった。江戸川は前に(優勝戦)1号艇で負けているので。今年はずまずチャレンジカップ。賞金上位を目指して頑張りたい。V数は意識はするけど、やれることを全力でやっていきたいですね」と今年今後の抱負を語ってくれた。

9月12日「GⅢマスターズリーグ第5戦」は4日連続でレースが中止打ち切りと天候に恵まれない波乱の一節だったが。最後を締めたのは今年も絶好調の中辻崇人。中辻は一節前の若松一般戦で、菅章哉を筆頭としたチルト3度マスター達から伸び型の調整を学んで、当節は6戦全てのレースを江戸川の最高チルト2度で戦い抜いた。準備はインからコンマ09の仕掛けでグイ伸び一気の逃走。ただ優勝戦は「何か巻いてしまっただけで仕上がりは悪かった。伸びが全然なくなっていた」という状況でコンマ23のS。スリット付近は「まくられるかと思った」ではあったが、なんとか隣の山下和彦に艇を合わせると1M先マイ。逃げ切りに成功した。中辻は今年はこの9月で自己最多のV8を達成。「チルト2は今後の引き出しになればいいなど。ただV数とか自分はそのううのはいいので。一走一走、走るだけです」とレース後は淡々と語っていた。(野添)

ノーハンマーを貫いた！ 高田ひかるが約1年4か月ぶりV



8/25~30 平和島レディースカップ

1 ③ 高田ひかる (30) 三重	③ 19 516211211
2 ① 海野ゆかり (50) 広島	① 19 111311111
3 ② 廣中智紗衣 (43) 東京	② 19 241611241
4 ⑥ 黒澤めぐみ (34) 東京	⑥ 19 241115622
5 ④ 原田 佑実 (37) 大阪	④ 16 221463122
6 ⑤ 湯浅 紀香 (25) 群馬	⑤ 19 363124132
③① 930円(4) ③①② 2200円(7) まくり	

9/8~11 BTSオラレ刈羽開設8周年記念

1 ① 有賀 達也 (38) 埼玉	① 13 133111
2 ④ 齊藤 仁 (47) 東京	④ 10 312412
3 ⑥ 東本 勝利 (44) 三重	⑥ 14 21233
4 ⑤ 田中 辰彦 (38) 広島	⑤ 15 22214
5 ③ 萬 正嗣 (41) 群馬	③ 14 41113
6 ② 長尾 章平 (39) 山口	② 23 141142
①④ 330円(1) ①④⑥ 1670円(7) 逃げ	

9/15~19 第21回サントリーカップ

1 ① 桑島 和宏 (40) 東京	① 02 3232221
2 ③ 作間 章 (45) 東京	③ 17 1131112
F ⑤ 池田 雄一 (42) 静岡	⑥ +01 2614133
F ⑥ 谷川 祐一 (42) 滋賀	③ +03 43215223
F ② 高田 明 (39) 佐賀	④ +02 1251351
F ④ 佐藤 博亮 (36) 愛知	⑤ +02 15412312
①③ 110円(1) 不成立 100円 恵まれ	

8月25日初日の「GⅢ平和島レディースカップ」は、迷走した台風10号の影響を受け、中盤以降は天気がぐずつき気味。その分調整力も試された6日間だった。この時主役を演じたのは海野ゆかり。初降ろし時に石川真二が扱い超出足型へ変貌を遂げ、その後はノーハンマーが続いた相棒・24号機に約2か月ぶりとなる調整の手を加え、自身向きにアレンジ。予選、準優日を9戦8勝で通過しV枠を手にしたが、逆にノーハンマーという日々を過ごしていた高田ひかるが優勝戦では3コース全速を決め先頭へ。近況はF2などがあり本調子ではなかった高田だが、うまく伸び寄りの良足仕様に仕上げ、約1年4か月ぶりとなる復活Vを遂げた。

続く「BTSオラレ刈羽開設8周年記念」では有賀達也が初日からトップ足に。予選3日間では6戦してトップスタート5回、内4回が0台の仕掛けとスリット線上での存在感も抜群。優勝戦でも中へコミという隊形上の不利を跳ね除け、デビュー初勝利を挙げた思い出の水面で、嬉しい初優勝を達成した。15日初日の「第21回サントリーカップ」は、地元の大エース濱野谷憲吾が登場。優勝した今年の地区選以来となる当地参戦だけに連覇の期待もかかったが低調機に足を引っ張られ、苦しい戦いの連続に。同じくV候補の深谷知博と共に予選突破はならず。主力級に伸び型調整の選手が多かったこともありインが弱く4日目に至っては1枠が僅か1勝。準優でも作間章、佐藤博亮が逃げられず、予選未勝の桑島和宏がV戦1枠を手にするという、異例づくめの展開に。波乱の空気は優勝戦でも充満し、何と4艇の集団Fまで発生。桑島は際どいスタートから生還を果たし約8年ぶりとなるVを達成。最後までツキ男ぶりを発揮した。(ガイド・長船)

クラシック出場へ前進！ 2連続Vの若林将が今年V5



8/21~26 第8回住信SBIネット銀行賞

1	①	中澤 和志 (48)	埼玉	①	17	311212111
2	⑤	吉永 則雄 (45)	大阪	⑤	12	111562152
3	②	河村 了 (40)	愛知	②	19	141261131
4	④	川北 浩貴 (52)	滋賀	④	13	323211132
5	⑥	川上 聡介 (47)	愛知	⑥	29	52122232
6	③	中井 俊祐 (43)	大阪	③	16	23166121
		①⑤	950円(4)	①⑤②	2740円(11)	逃げ

9/2~8 第57回報知新聞社賞静波まつり杯

1	①	若林 将 (40)	東京	①	07	122113131
2	③	前田 聖文 (36)	愛知	③	09	151233221
3	④	西村 拓也 (37)	大阪	④	07	332242152
4	②	山本 英志 (49)	東京	②	07	21311351
5	⑤	畑 竜生 (28)	三重	⑤	06	23452152
6	⑥	中村 尊 (43)	埼玉	⑥	12	5634121転2
		①③	320円(1)	①③④	690円(1)	逃げ

9/11~15 第61回サンケイスポーツ賞

1	①	清水 敦揮 (43)	岡山	①	02	21313131
2	②	妹尾 忠幸 (44)	岡山	②	04	42211221
3	⑤	荒川 健太 (44)	三重	⑤	09	43122112
4	③	西舘 健 (39)	東京	③	02	1213431
5	⑥	牧 宏次 (50)	東京	⑥	15	2132312
6	④	渡辺 真至 (46)	愛知	④	07	3212142
		①②	220円(1)	①②⑤	660円(2)	逃げ

8月21日に初日を迎えた「第8回住信SBIネット銀行賞」は中澤和志の独壇場だった。初戦こそ3着だったが、その後はオール2連対の大活躍。特に回ってからの加速や行き足が目立っていた。予選1位から準優も順当に逃げ切った中澤は優勝戦もインから力強く逃走。5コーンから吉永則雄がシャープに切り込んできたが前を向いて先頭とは大きな差ができていた。

9月一発目の開催となった「第57回報知新聞社賞静波まつり杯」は台風による公共交通機関運休の影響で前検作業がずれ込み3日が初日となった。シリーズは西村拓也や岩瀬裕亮がエンジン出して苦戦する中、地元若林将が柳川敬太を1着本数の差で上回り予選を1位で通過した。決して満足のいく仕上がりはなかったが若林は準優で西村に一度は先頭を奪われたものの道中逆転で無事ファイナル1枠を獲得。最後は誰にも先頭を

譲ることなく逃げ切つてみせた。若林は直前の平和島に続く連続V。今年の優勝回数を5回に乗せ、来年のクラシック出場に大きく前進した。

9月11日に始まった「第61回サンケイスポーツ賞」。今年の薄暮開催はこれで最後となった。上位が手堅く着をまとめ準優好争いは熾烈(しれつ)となる中、予選ラストを逃げた渡辺真至がトップ通過を果たす。しかし渡辺は準優で1Mまさかの旋回漏れで2着となり優勝戦は1枠を清水敦揮、2枠を妹尾忠幸と岡山支部2人が占めた。迎えた優勝戦はバック側から吹く強風をもとせせず、清水がコンマ02のスタートから1Mを先取り。差した妹尾があとわずかのところまで詰め寄るも、バック中間で突き放した清水が2Mを先取して今年3度目の優勝を飾った。(トーチユウ・白川)



鮮やかなまくり差し！ 川井萌が悲願のデビュー初優勝

優勝へ期待が膨らんだ。優勝戦は2枠の川井がピット離れて後れを取り、回り込んで3コース進入も大きく動揺。分からないままスタートを行ってしまい、1Mも無我夢中でハンドルを入れたとか。ところが、これが見事にはまる。イン今井と2コース三浦の間を鮮やかに割ってデビュー初Vを飾った。

【オラレ浜松2周年記念 本命

「GⅢオールレディーズ静岡クラウンメロン杯」予選トップ通過を果たしたのは三浦永理。前検ではクセが強すぎるペラの形状に驚きを隠せず、片面だけ少し手を加えて出足中心に満足げ。ただ、準優12Rは川井萌のまくり差しを許して2着。3枠での優出となった。(準優11R 1着の岩崎芳美は前半レースでFのため、賞典除外)。代わってファイナル1枠を手に入れたのが今井美亜。相棒の5号機はパワフルそのもの。19年徳山クインズクライマックス以来の

8/19~24 オールレディーズ静岡クラウンメロン杯

1	②	川井 萌 (22)	静岡	③	22	423131221
2	①	今井 美亜 (34)	福井	①	11	1326411141
3	④	寺田 千恵 (55)	岡山	④	23	4621131242
4	③	三浦 永理 (41)	静岡	②	23	1121111142
5	⑤	平田 さやか (40)	東京	⑤	18	1224362542
6	⑥	長嶋 万記 (43)	静岡	⑥	21	2411122133
		②①	1570円(5)	②①④	6120円(22)	まくり差し

8/30~9/4 本命戦 浜松級メモリアルBOATBOY CUP

1	①	山田 康二 (36)	佐賀	①	14	214313161
2	⑤	松尾 拓 (36)	三重	⑤	22	134131342
3	③	吉田 翔悟 (33)	長崎	③	16	41224251
4	⑥	品川二千翔 (26)	山口	⑥	24	12352222
5	④	小池 修平 (29)	大阪	④	24	211111112
6	②	新開 航 (28)	福岡	②	19	141341311
		①⑤	1400円(5)	①⑤③	6740円(23)	逃げ

9/9~14 にっぽん未来プロジェクト競走in浜名湖

1	③	高橋 竜矢 (26)	広島	③	10	253422311
2	④	桐生 順平 (37)	埼玉	④	14	1111311132
3	⑤	上田 龍星 (29)	大阪	⑤	17	2521131152
4	②	佐々木康幸 (51)	静岡	②	10	3446121141
5	⑥	岡本 大 (42)	長崎	⑥	26	233442262
6	①	山本 寛久 (48)	岡山	①	20	4212611131
		③④	3940円(12)	③④⑤	12940円(35)	抜き

優勝12Rは佐々木康幸にまくり差されて痛恨の2着。前節同様に唯一、準優を逃げた山本寛久がファイナル1枠と絶好のVチャンスが巡ってきた。ところが優勝戦は山本がインでスタートを遅れるまさかの展開。バックは差した高橋竜矢と桐生が並走も、高橋が2Mで桐生を差し返して逆転勝ち。今年2度目の優勝を決めた。(MOCHI)

戦はB級メモリアルBOATBOY CUP」浜名湖を大の得意とする小池修平がF2ながらも準完全ペースで予選トップ通過。しかし、準優12Rではさすがにスタートを行き切れず2着に。準優組でただ1人逃げ切った山田康二がファイナル1枠を手中にした。優勝戦もイン速攻で他艇を封じて、6月に続く浜名湖連続Vを達成した。

「にっぽん未来プロジェクト競走in浜名湖」桐生順平は8戦7勝3着1本とさすがの内容で予選トップ通過を決めたものの、

蒲郡



これを菅章哉の真骨頂！ 4カドまくりで今年V5



菅章哉

8/23~28 名古屋グランパス船の大祭典CUP

1	④	菅 章哉 (36)	徳島	④	07	1325211222
2	⑤	吉島 祥之 (40)	愛知	⑤	14	232122212
3	②	谷川 祐一 (42)	滋賀	②	14	214311111
4	⑥	石田 貴洋 (28)	埼玉	⑥	07	232612512
5	①	稲田 浩二 (39)	兵庫	①	12	12211111111
6	③	谷川 里江 (57)	愛知	③	21	121551441
④⑤ 850円(4) ④⑤② 3250円(13) まくり						

8/31~9/7 ルーキースシリーズ第12戦 スカパー!・JLC杯

1	①	中野 仁照 (22)	愛知	①	04	122221231
2	④	登玉 隼百 (25)	兵庫	④	09	111121452
3	⑥	山口 広樹 (28)	福岡	⑥	29	232261642
4	③	前田 滉 (24)	愛知	③	14	1152514121
5	②	畑田 汰一 (25)	埼玉	②	13	5215111331
6	⑤	倉田 茂将 (26)	愛知	⑤	15	124236312
①④ 660円(3) ①④⑥ 8360円(30) 逃げ						

「蒲郡は伸びやすいので好きです」と前検から話していたが、「狙い通りに来てくれました」と初日からパンチ力十分なスタートを披露した。

一番ポイントになったのは準優勝戦。得点率が4位止まりだったことで2号艇でのレースになり悩ましい選択を迫られたが「いろいろ考えてチルトは0を選択しました。前節Fをしてしまったけれど、チルト0の調整が当たり始めているので」と2コ

8月23日からの名古屋グランパス船の大祭典CUPは、モーター、ボート、プロペラが一斉更新されて3節目。ドリーム戦を逃げ切った丸野一樹が3日目4Rで痛恨の勇み足をしてしまい、ドリーム戦2着だった稲田浩二が2日目後半から7連勝でポールポジションをゲットした。

「蒲郡は伸びやすいので好きです」と前検から話していたが、「狙い通りに来てくれました」と初日からパンチ力十分なスタートを披露した。

そんな波乱のシリーズを制したのは地元の中野仁照。予選トップ通過の登玉隼百が準優で2着に敗れたことで絶対枠をゲット。気合を全面に押し出すスタートと1マークでデビュー初Vを勝ち取った。

(スポーツ報知・太田和良)

本来なら大本命で迎える優勝戦だが、今回は強敵がいた。チルト3度を駆使する菅章哉だ。「蒲郡は伸びやすいので好きです」と前検から話していたが、「狙い通りに来てくれました」と初日からパンチ力十分なスタートを披露した。

2日間の水入りが影響したのか、5日目を除く5日間でフライングが発生。合計12件、不良航法も8件と荒れまくった。

8月31日からのルーキースシリーズは、30日前検業務こそ実施されたが、31日・9月1日は台風接近のため順延となり、9月2日から7日までの6日間開催で行われた。

1スからさばき勝負で2着を確保した。優勝戦に乗ってしまえば昔のもの。外枠の吉島祥之、石田貴洋がマークに回ったことで4カドにもなり、一気まくりで今年5回目の優勝を飾った。

8/25~28 BTS名古屋開設18周年記念競走

1	②	井上 忠政 (28)	大阪	②	12	151221
2	③	山崎 郡 (34)	大阪	③	12	125131
3	④	萩原 秀人 (45)	福井	④	14	333112
4	⑤	守田 俊介 (49)	滋賀	⑤	18	113622
5	⑥	秋山 直之 (45)	群馬	⑥	21	142152
F	①	澤田 尚也 (25)	滋賀	①	+01	211211
②③ 540円(1) ②③④ 1970円(3) 恵まれ						

8/31~9/5 ヴィーナスシリーズ第12戦常滑シンデレラカップ

1	①	小野 生奈 (35)	福岡	①	03	213122151
2	②	三浦 永理 (41)	静岡	②	09	313112311
3	⑤	平高 奈菜 (37)	香川	⑤	11	416322352
4	⑥	大瀧明日香 (45)	愛知	⑥	12	344251322
5	③	西岡 成美 (28)	徳島	③	09	131221441
6	④	鎌倉 涼 (35)	大阪	④	13	123114442
①② 240円(1) ①②⑤ 1260円(4) 逃げ						

9/9~12 住信SBIネット銀行賞

1	①	吉永 則雄 (45)	大阪	①	16	131211
2	③	下條雄太郎 (38)	長崎	③	09	512451
3	④	田頭 虎親 (26)	香川	④	25	242222
4	②	市橋 卓士 (45)	徳島	②	16	222111
5	⑤	都築 正治 (53)	愛知	⑤	22	41142
6	⑥	本多 宏和 (37)	愛知	⑥	31	23152
①③ 360円(2) ①③④ 980円(4) 逃げ						

9/15~18 創刊75周年記念日刊S杯第34回マリンキング決定戦

1	①	益田 啓司 (45)	福岡	①	07	111221
2	②	桑原 悠 (37)	長崎	②	08	242121
3	⑤	江夏 満 (44)	福岡	⑤	12	361312
4	④	宇佐見 淳 (43)	愛知	④	12	221142
5	③	富永 正人 (51)	埼玉	③	22	12411
6	⑥	出畑 孝典 (45)	福岡	⑥	14	232362
①② 230円(1) ①②⑤ 800円(3) 逃げ						

産休明け初! 小野生奈が3年ぶりの優勝



とこなめ

8月28日のBTS名古屋開設18周年記念競走。エンジン完調でV戦1枠を射止めた澤田尚也。盤石のイン戦かに思われたが、優勝戦はわずかコンマ01の勇み足に泣いた。スリットはひとり飛び出していただけに、もう少しアジャストできなかったかと悔やまれる。差し追走の形となった井上忠政が繰り上がって先頭へ。2着山崎郡、3着萩原秀人を従え、井上がVゴール。

9月5日のヴィーナスシリーズ第12戦常滑シンデレラカップ。行き足・伸びを仕上げた小野生奈が優勝戦1号艇。優勝戦はコース取りに動きはなく、枠なりの3対3。人気を集めた小野はインからコンマ03のトップS。こうなれば最内有利に押し切っていく。三浦永理は西岡成美をけん制しつつの差しでは追走が一杯。3着へは平高奈菜が浮上。小野は自身3年ぶり、産休明けでは初、当地も初優勝だった。

12日の住信SBIネット銀行賞。実績エンジン16号機をキツチリと仕上げた吉永則雄がマイペースのイン戦。スリットでは3コース下條雄太郎がコンマ09の踏み込みで先手を奪ったが、内の吉永・市橋卓士も伸び返し加減。1マークはまくって出た下條を受け止め、吉永が豪快に握ってイン逃げを決めた。市橋は差し損ね、田頭虎親がブイ差し二番手へ。2マークは吉永が悠々と先マイV。市橋が田頭の内に切り込んだところを、下條が冷静に差して2着へ浮上。

18日の第34回マリンキング決定戦。行き足・伸びを快速に仕上げた益田啓司がオール2連対で優勝戦1枠をゲット。その益田は優勝戦でコンマ07の今節一の踏み込みを決め、そのまま先マイ逃げ切った。チルト05の桑原悠だが、この隊形では差ししか選択肢がなかった。それでも堅実に差して2着確保。

(とこなめ情報・土井)

90日の休み明けも何のその！ 秦英悟が1月以来の美酒！



津



河合佑樹



秦英悟

9/15~19 津ぎょうざ小学校大運動会

1	①	秦 英悟 (39)	大阪	①	18	11131111
2	⑤	平田健之佑 (37)	三重	⑤	21	1411362
3	④	小坂 尚哉 (38)	兵庫	④	18	2151122
4	⑥	永田 秀二 (38)	東京	⑥	20	4612222
5	②	東本 勝利 (44)	三重	②	22	23214141
転	③	岡村 仁 (40)	大阪	③	19	12242211
①⑤	1520円(5)	①⑤④	7500円(24)	逃げ		

8月24日からの6日間開催「開設9周年記念B.T.S名張モンスターカップ」で注目を集めたのは今年こまで4回の優勝を決めていた河合佑樹。ドル箱の当地で5回目を飾り、クラシックの出場権を視野に入れるかどうかが焦点だった。河合は、小野達哉との激しいトップ争いを制し、見事優勝戦1号艇をゲット。だが台風10号の影響により、風は吹かなかつたが雨がひどかった。雨水の逃げ場がなくなり水位が上がり、レース続行不可能の判断が4R終了後に下された。まさかの雨による打ち切り、河合は泣くに泣けない最終日だったか。小森信雄も16年半ぶりの優出だったが、幻の晴れ舞台となった。

周年レースを挟んで9月15日からは5日間開催の「津ぎょうざ小学校大運動会」が行われた。津の市民食として慕われる津ぎょうざは、学校の給食から始まったという歴史から、銘打たれた大会である。初日ドリムの1号艇へ組まれたのは秦英悟。前期終盤に立て続けにFを切り90日の休み明けという立場での参戦。果たしてスタートは：の不安もあったが、ふたを開けてみれば予選、準優を8戦7勝、3着1回の快進撃。スタートこそ遅め、いや丁寧に決めていたというべきか。そこで勝負せず回り足でまとめる戦術が、好展開も手伝ってピンラッシュを呼んだ。秦に続いたのが東本勝利だった。こちらも軽快なレース足を發揮して優勝戦は2号艇を確保。そして岡村仁もトップレベルを自負する足。平田健之佑が5号艇へ構え大阪VS三重の様相となった優勝戦。スタート勝負を避けたかった秦にとつては、スリットがコンマ20付近へ落ち着いたことは助かったか。3カドに引いた岡村のまくり差しを封じ切り先マイ。1月丸亀以来となる今年2回目の優勝を決めた。(中日スポーツ・高橋)

三国



天候もレースも荒れたシリーズ 最後は渡邊雄朗が差し抜けた！

事故多発の印象が強かった「福井ユナイテッド杯」。途中帰郷や賞典除外の選手が多く、混戦ムードが漂った。その中で、梶番に応じてチルトを変え自在に戦い抜いた飯山泰が、優勝戦1号艇を獲得。以下、内から、近況好調の渡邊雄朗、F2のハインデも安定した鈴木勝博、三国巧者ぶりを披露した木下翔太、堅実な着取りでまとめた上條嘉嗣、当地4節連続優出となる佐藤大介と、A1級の6選手がファイナル進出を果たした。向かい風が強く、安定板を使用して行われた優勝戦。スタート決めるも、少々ターン流れた飯山を冷静に差しした渡邊が、そのまま先頭でゴール。今年4度目の優勝を飾った。

男女混合戦の「三国港解禁ふくい甘えび杯」は、菅章哉が連日コース不問での大活躍。初日の三国選抜ではインから逃げて勝利、ダッシュ枠ではチルト3度のガースー砲が炸裂。予選では4回跳ねたうち3勝を飾り、得点率トップに立った。女子は5人参戦した中、今井美亜と塩崎桐加が予選突破。その2人の準優での戦いは、明暗がくつきりと分かれた。塩崎は強烈パワーを生かし、道中競り勝つての2着に入り、三国4連続優出を決めたが、今井は痛恨のフライング。地元戦で悔しさを味わう結果となった。優勝戦は梶番順に菅、得点率2位の河野真也、5日目に連勝した石田章央、予選での減点はねのけた柳内敬太、三国選抜メンバーの谷村一哉、女子唯一でベスト6入りの塩崎。迎えた頂上決戦。インの菅のスタートが若干後手を踏み、外の3艇が好スタート。カドの柳内が内にプレッシャーをかけて冷静に差し切つて、そのまま先頭でゴール。2着は展開割った谷村。3着は道中競り合いを制した石田。3連単は3万舟と高配当決着だった。(実況アナウンサー・高橋敬亮)



8/25~30 福井ユナイテッド杯

1	②	渡邊 雄朗 (38)	東京	②	23	141413131
2	①	飯山 泰 (46)	東京	①	16	1214312151
3	④	木下 翔太 (33)	大阪	④	19	3314231142
4	⑤	上條 嘉嗣 (34)	大阪	⑤	22	412323122
5	⑥	佐藤 大介 (48)	愛知	⑥	22	1514342312
6	③	鈴木 勝博 (41)	愛知	③	27	133124141
②①	1190円(5)	②①④	3240円(12)	差し		

9/12~17 三国港解禁 ふくい甘えび杯

1	④	柳内 敬太 (35)	兵庫	④	08	122112612
2	⑤	谷村 一哉 (45)	山口	⑤	09	1432523212
3	③	石田 章央 (48)	静岡	③	11	112362311
4	①	菅 章哉 (36)	徳島	①	17	3111241131
5	⑥	塩崎 桐加 (32)	三重	⑥	04	161162422
6	②	河野 真也 (35)	福岡	②	15	411412261
④⑤	6370円(13)	④⑤③	32230円(58)	差し		

びわこ



さすがはゴールデンレーサー 吉川元浩が貫禄を示すV



吉川元浩

8/20~23 さがけいば杯

1	①	吉川 元浩 (51) 兵庫	①	10	141131
2	②	澤田 尚也 (25) 滋賀	②	13	112351
3	③	下條雄太郎 (38) 長崎	③	10	123221
4	④	芝田 浩治 (52) 兵庫	④	11	411432
5	⑤	定松 勇樹 (23) 佐賀	⑤	14	213352
6	⑥	和田 兼輔 (37) 兵庫	⑥	13	241422
①② 380円(2) ①②③ 820円(1) 逃げ					

9/5~8 第12回近江牛カップ

1	②	平野 和明 (43) 愛知	②	10	221331
2	⑤	中村 真 (51) 福岡	⑤	08	12135
3	①	林 美憲 (49) 徳島	①	17	211132
4	④	溝口海義也 (29) 福岡	④	06	242323
5	⑥	向井田直弥 (33) 広島	⑥	04	14412
6	③	小坂 尚哉 (37) 兵庫	③	06	133241
②⑤ 20040円(24) ②⑤① 37520円(59) 差し					

8月23日は「さがけいば杯」の最終日。2日間の予選を4戦3勝で首位通過の吉川元浩が準優勝も1着でファイナルの1号艇に構える。直線に中間整備が入った34号機を駆って出足はパワフル。最後は今節ただ一人のゴールデンレーサーの手腕で逃げ切るのみだ。念願の地元初Vに燃える澤田尚也も出足は好レベル。ピットでは評判の足色に仕上げた芝田浩治をはじめ、下條雄太郎、和田兼輔、佐賀支部から唯一の優出を決めた定松勇樹らも虎視眈々とV奪取を狙ってくる。迎えた優勝戦は吉川がコンマ10の好Sからイン先マイ。鋭く差した澤田がBSでは吉川の背後まで追ったが、2周HSに入って差を広げた吉川が先行態勢に持ち込む。吉川は通算103回目、当地では2007年8月の秩父宮妃記念杯(GⅡ)を含め4回目のVを飾った。

8月27日から開催された「中日スポーツ杯」は4日目終了時点で井本昌也が得点率首位となったものの、台風接近の影響で5、6日目は中止となった。「近江牛カップ」の最終日は9月8日。林美憲が3日間の予選をトップ通過でファイナルの1号艇をゲットした。2連対率25・6%の凡機をさすがの調整手腕で立て直し、強力な伸びを中心にトップ級のパワーを誇る。ただ、直前に中間整備が入った37号機の平野和明も林と並んで今節のツートップに称される快パワ。小坂尚哉、溝口海義也も好仕上がり武器にV争いに加わりたい。迎えた優勝戦はインの林がまさかのS遅れ。伸び返して何とか先マイもオーバートーンとなり、冷静に差した平野、5コースからまくり差して飛び込んできた中村真がBSでは一騎打ちの状況に。2M先取りから中村との差を広げた平野が先行態勢に持ち込みV。平野は通算4回目、びわこでは初となるVを飾った。(クラ)

21年ぶり当地Vの吉田俊彦 11月のGⅠに弾みをつけた!



佳之江



鶴本崇文



吉田俊彦

8/21~26 にっぽん未来プロジェクト競走in住之江

1	②	吉田 俊彦 (46) 兵庫	②	06	341213221
2	①	鶴本 崇文 (39) 大阪	①	04	13213251
3	③	上野真之介 (36) 佐賀	③	06	221414221
4	④	須藤 博倫 (46) 埼玉	④	06	114531462
5	⑤	尾嶋 一広 (37) 兵庫	⑤	04	351421522
6	⑥	神田 聖也 (36) 福岡	⑥	08	35511542
②① 1280円(6) ②①③ 2950円(11) 差し					

8月21日からは「にっぽん未来プロジェクト競走」が開幕。地元勢では鶴本崇文、濱本優一、藤山翔大、石本裕武など中堅から若手まで幅広く参戦。遠征勢では上野真之介、笠原亮、吉田俊彦、須藤博倫、女子勢では香川素子、大瀧明日香、深尾巴恵など多くの実力者が集まった。ドリーム戦は須藤が5コースからまくり差して白星を挙げ、初日唯一の連勝と最高の滑り出しとなった。3日目には鶴本がシリーズ2勝目を挙げたが、これがデビューから通算1000勝目の白星に。節目となる大台達成を見事に地元水面で飾った。レース後に記念撮影を終えると「1000勝目はもう少しのところがなかなかたどり着けなかった。今の勝ち(抜きでの)はまぐれ。もっと格好良く決めたかったですね」と、はにかむ姿が印象的だった。その後も勢いに乗った鶴本は予選をトップで通過すると、準優勝もしっかり逃げたいところだ。(安達弘持)

優勝戦の1号艇を獲得。自身のメモリアルシリーズを最高の結果で締めくくりたかったが、優勝戦は2着に敗れてしまう。見事に栄冠を掴んだのは予選を2位で通過した吉田。優勝戦は全選手が0台の早いスリット台戦となったが、吉田もコンマ06のスタートを決めると、イン鶴本のターンが僅かに流れた一瞬の隙を捉えて差し切った。これが今年5回目の優勝だが、意外にも当地では2003年以来となる約21年ぶり2回目の優勝となった。「住之江は苦手意識がずっとあったけど、今節のようにいいエンジンを仕上げられたら戦える手応えをつかんだ」と、苦手意識を払拭できた様子で、「次回の記念戦にも呼んでもらっているしね」と視線は11月に開催が控えるGⅠ「第52回高松宮記念特別競走」に早くも切り替えた。11月の記念戦でも今回と同様に大暴れの活躍に期待したいところだ。

地元SG出場へ好気合！ 池永太が今年5度目V！



尼崎

8/24~28 UHA味覚糖杯

1	①	池永 太 (39)	福岡	①	13	12222151
2	②	西村 拓也 (37)	大阪	②	14	21115321
3	③	太田 和美 (51)	大阪	③	12	63112121
4	④	渡邊 英児 (55)	静岡	④	11	3232112
5	④	松井 洪弥 (31)	三重	④	11	26311212
6	⑥	一瀬 明 (53)	東京	⑥	16	34131322
①② 230円(1) ①②③ 650円(1) 逃げ						

9/4~8 にっぽん未来プロジェクト競走in尼崎

1	①	大場 恒季 (24)	愛知	①	03	1131161
2	③	山崎 郡 (34)	大阪	③	09	21212441
3	④	杉山 正樹 (44)	愛知	④	09	33212312
4	②	木下 翔太 (33)	大阪	②	09	1121241
5	⑥	大上 卓人 (34)	広島	⑥	09	15433112
6	⑤	山ノ内雅人 (33)	福岡	⑤	10	1262142
①③ 360円(1) ①③④ 900円(2) 逃げ						

9/10~14 BTS京丹後開設9周年記念競走

1	①	西野 雄貴 (34)	徳島	①	14	1132561
2	②	赤坂 俊輔 (41)	長崎	②	13	32531161
3	③	土屋 南 (27)	岡山	③	10	1256142
4	⑤	白神 優 (34)	岡山	⑤	17	4541112
5	④	中山 翔太 (20)	三重	④	12	1136442
6	⑥	橋本 年光 (49)	兵庫	⑥	16	2314323
①② 300円(1) ①②③ 820円(1) 逃げ						

「UHA味覚糖杯」シリーズをけん引したのは選抜組。初日は西村拓也が2、1着発進。中盤以降は池永太が的確にポイントを積み重ねて予選トップ通過。西村は2位に後退した。準優の残りの1枠は太田和美が手にした。準優は1枠がそれぞれ順当に勝ち上がった。気配を見せたのは松井洪弥。伸びを軸にハイパワーへと仕上げて優出。渡邊英児と一瀬明がそつのないレース運びで優出切符をつかんだ。優勝は池永がインからコンマ13のタイミング。冷静に1M先取りに成功。今年5度目、尼崎では2度目、通算54度目のVをつかんだ。

「BTS京丹後開設9周年記念競走」初日選抜戦を制した山本隆幸は準優敗退。予選トップ通過の馬袋義則は準優で逃げ切ったが、待機行動違反で賞典除外。予選2位で優出した西野雄貴に優勝の1枠が転がり込んだ。パワフルに仕上げた当地巧者の赤坂俊輔。紅一点となった土屋南や、中山翔太は尼崎初優出。道中で新ペラ交換となり、急ピッチで仕上げた白神優。橋本年光は繰り上がりで優出を決めた。優勝戦は西野が鮮やかに逃げてデビュー地の尼崎では初Vを飾った。(日刊スポーツ・北條)

鳴門



当地最高配当も飛び出した！ 乱戦はF2原田幸哉が制す！

5日間シリーズの第8回ヴォルティスカップ競走の最終日は1レースで3連単32万9270円の鳴門最高配当(2024年9月2日時点)が

縮めくった。両者が人気に応じて優勝戦の好枠へ入る。そして、つかんだ流れを離さなかった長田がインからしつかり逃げて今年初優勝で締めくくった。

マイには持ち込んだものの4カードから差してバック最内をスルスルと伸びた黒野が2マークを先取りして主役の座を再度取り返した。

4日間シリーズのエディウィン鳴門開設13周年記念競走は予選首位通過の黒野元基が準優で惜敗2着。優勝戦は予選2位で準優を押し切った入澤友治が逆転の絶対好枠をゲットして人気も集めたが、スタート遅れ。先

走は5日間シリーズで行われた。序盤から3連勝で宮内直哉が戦線をリードしたが、3日目で減速。変わって同じ東京支部の長田頼宗が予選トップ通過を決めた。機力ハイレベルの丸尾義孝が地元ベテランらしくしぶとい走りをみせて2位。宮内が続いて、トップ3が決定した。準優10Rは大波乱。6号艇の森悠稀が道中逆転で勝ち、2着の吉田一郎が準優不良航法のため賞典除外。3着だった宮内が続り上がりの優出で高配当決着。

飛び出した。優勝戦はSG覇者の原田幸哉が絶対好枠で人気を集めたが、F2ハンデを抱えている上に、機力抜群の郷原章平、14連統優出を決めて勢いのある松村敏と、強力なライバルもいて混戦ムードも漂ったが、SGホルダーの原田は強かった。インから先マイを決めて、まくり差して肉薄した松村を振り切った。スタートに不安を抱えながらの戦いでも、地力を発揮した原田はメモリアルな通算100回目の優勝で締めくくった。

8/19~23 BTS土佐開設28周年記念競走

1	①	長田 頼宗 (39)	東京	①	17	23122131
2	③	森 悠稀 (31)	兵庫	③	13	5324111
3	②	丸尾 義孝 (56)	徳島	②	21	2212241
4	④	山田 祐也 (35)	徳島	④	14	16335112
5	⑥	宮内 直哉 (34)	東京	⑥	11	1112633
6	⑤	樋口 亮 (49)	長崎	⑤	23	4115552
①③ 390円(3) ①③② 1170円(5) 逃げ						

8/29~9/2 第8回徳島ヴォルティスカップ競走

1	①	原田 幸哉 (48)	長崎	①	12	12121121
2	③	松村 敏 (40)	福岡	③	09	41132231
3	④	山口 達也 (37)	岡山	④	12	13421532
4	⑤	林 祐介 (40)	岡山	⑤	13	1216312
5	②	郷原 章平 (43)	福岡	②	13	11113551
6	⑥	芝田 浩治 (52)	兵庫	⑥	31	2112452
①③ 310円(1) ①③④ 830円(1) 逃げ						

9/11~14 エディウィン鳴門開設13周年記念競走

1	④	黒野 元基 (28)	愛知	④	13	1311112
2	①	入澤 友治 (45)	東京	①	28	1122211
3	②	河合 佑樹 (37)	静岡	②	17	2122211
4	⑤	野中 一平 (29)	愛知	⑤	13	321242
5	⑥	大崎 翔 (37)	兵庫	⑥	15	23332
6	③	松本 純平 (29)	埼玉	③	16	144221
④① 1570円(5) ④①② 4130円(15) 差し						

まるがめ



激戦に次ぐ激戦も… 最後は萩原秀人がイン圧倒！



9/5~9 BTSまるがめ開設38周年記念

1	①	濱野 斗馬 (24)	香川	①	13	11212121
2	②	木谷 賢太 (28)	香川	②	10	11132341
3	③	梶野 学志 (43)	東京	③	08	3324231
4	⑤	芦澤 望 (46)	東京	⑤	14	14241512
5	⑥	小池 哲也 (35)	大阪	⑥	23	54312432
6	④	中村 日向 (25)	香川	④	09	55112112
①② 220円(1) ①②③ 800円(2) 逃げ						

9/12~17 丸亀-1 グランプリ ふじむら杯

1	①	萩原 秀人 (45)	福井	①	13	221132131
2	⑤	山本 浩次 (51)	岡山	⑥	09	43312622
3	③	服部 達哉 (38)	愛知	③	09	121243461
4	⑥	吉川 昭男 (51)	滋賀	④	21	132362243
5	②	若林 将 (40)	東京	②	12	331214111
6	④	川北 浩貴 (52)	滋賀	⑤	08	166211312
①⑤ 2510円(9) ①⑤③ 10960円(33) 逃げ						

超大型の台風10号が直撃、中止順延は何日になるのか…。SGメモリアルは不安要素たっぷりの開幕となったが、結果は当初のスケジュール通りに行われ、節間売り上げは196億371万1700円。目標の180億円を大幅に上回った。日曜日だった9月1日の最終日はボート場前の道路が大渋滞。とくに優勝戦直後の時間帯からは全く前に進む気配がないほど。場内も大混雑で、パブル期を思い出すほどの大盛況だった。来年はSGオールスターが待っている。今から楽しみだ。

9月5日からの「BTSまるがめ開設38周年記念」は5日間シリーズの準優制で行われた。初日メインの12R「ドリーム」は1枠に抜てきされた地元のプロ野斗馬がインからコンマ07のトップスタートを決めて快勝。その勢いに乗って予選をトップ通過、そして準優も完勝して優勝戦も1枠を手に入れた。「全部の足が良くてトップだ」と思う。スタート勘もばっちりです」と仕上がりのスタートも完調宣言。ファイナルもイン先マイから木谷賢太も2コース差しを振り切って押し切った。今年1月の鳴門「ボートレースレディースVSルーキーズバトル」でデビュー初Vを飾ってから、その後地元まるがめで3回の優勝歴。次節のヤングダービー（桐生）にもいい流れで挑むことになり、さらに念願のSGクラシック出場も視野に入ってきた。

前原哉、小林愛実、藤原早菜… 次世代の岡山レディースに期待！



児島



前原哉

児島は8月の「第42回天領杯」が終わって改修工事のため、約1か月は本場開催がない。次の開催は9月24日から「GⅢオーレルレディースマンスリーBOATRACE杯争奪 瀬戸の女王決定戦」となっている。その間は出張での取材となり、3人の女子レーサーに今期の調子を聞いてみた。

前原哉は「前期よりは良くなくなる。子供が生まれて休んだりしていたから、レースに慣れできてくる感じ。ペラはいい時は当たってる感じ。バランスが取れてる。前走者からそんなに叩き変えなくても出てる」。今期の目標は「もうちょっと優勝戦に乗りたいたい。オフの過ごし方は「お出かけしてます。家族の時間が短いので、どこかへ連れて行ってあげたいなと思って」と充実感があふれている。

小林愛実は「今期はちよつとずつ安定した点数が取れるようになってきてる」。今期の目標は「A級昇格は目指している。頑張りたいです。オフの過ごし方は



藤原早菜



小林愛実

「最近同期とグランピングとか遠出してますね」とリフレッシュしてリズムは右肩上がりだ。藤原早菜は「今期は悪い時の最低ラインが上がっているから、そこまで勝率を下げている。良いエンジンを引かせてもらってるといいけど、悪かった時に出せていない。スタートは安定してもっといけるように。そこが課題ですね。オフの過ごし方は「免許を更新してジェットスキーに乗れるように。釣りをしたり。ガンバ大阪の観戦に行ってます」。レースに集中できるように休日はそれぞれだ。

岡山支部の女子でA1級は寺田千恵、田口節子、守屋美穂、喜井つかさ。A2級は金田幸子、樋口由加里、藪内瑞希、土屋南。総勢22人が在籍して岡山支部のレベルは上向いている。(S・O)

今年度の優勝戦で初めて1号艇インが敗退!



宮島

8/27~9/2 第12回サッポロビール杯

1	④	前田 篤哉 (27)	愛知	④	13	112135312
2	①	森定 晃史 (41)	岡山	①	14	411231311
3	②	広瀬 聖仁 (58)	愛知	②	13	221621421
4	⑥	小林 文彦 (35)	福岡	⑥	20	63124122
5	③	丸岡 正典 (45)	大阪	③	21	225231641
6	⑤	中岡 正彦 (46)	香川	⑤	12	114343132
④① 1270円(5) ④①② 6880円(21) まくり差し						

9/4~9 第15回PayPay銀行賞

1	①	中島 秀治 (28)	滋賀	①	18	251321151
2	④	重木 輝彦 (36)	兵庫	④	31	221111252
3	③	吉田凌太郎 (30)	愛知	③	30	135616151
4	⑤	中村 有裕 (44)	滋賀	⑤	32	131143332
5	②	一瀬 明 (53)	東京	②	27	144122241
6	⑥	藤山 翔大 (33)	大阪	⑥	44	343311442
①④ 370円(2) ①④③ 1390円(5) 逃げ						

9/12~17 マンスリーBOATRACE杯宮島プリンスカップ

1	①	逸藤 エミ (36)	滋賀	①	12	231241241
2	⑤	三浦 永理 (41)	静岡	⑤	19	251544142
3	②	土屋 千明 (42)	群馬	②	14	14422111
4	⑥	鎌倉 涼 (35)	大阪	⑥	23	61323462
5	③	藤原 早菜 (23)	岡山	③	19	44133211
6	④	小野 生奈 (35)	福岡	④	21	152241232
①⑤ 940円(4) ①⑤② 3310円(13) 逃げ						

8月27日からのG III「サッポロビール杯」は前田篤哉が優勝した。この大会の3日目は台風10号の影響で安定板を使用し、周回短縮で争われた。急激な気圧変動による機の変調に対応せざるを得ない状況で、大会4日目は順延するなど各選手のモチベーション維持も非常に難しい大会だった。この大会の準優勝戦は好枠インで勝ち切ったのは予選3位通過の森定晃史のみと波乱の流れ。迎えた優勝戦の絶対枠は森定。イン戦が人気の軸となっていたが、4コースカドの前田が3コースの丸岡正典をS先手から抑え込むと一気にまくり差して突き抜け快勝した。前田は前検から瞬発力のある足を披露しており、この足を維持して最後まで勝ち切った。宮島は今年度の優勝戦で1号艇インが14連勝していたが、この前田の優勝で途絶えることとなった。

続く9月4日からの「PayPay銀行賞」はアクシデントも多く帰郷者10名。妨害失格は2名で3人Fと賞典除外が5名の大乱戦となった。この流れの中で予選トップ通過を果たしていた重木輝彦だが、準優は好枠1号艇ながら2着に敗れ、優勝戦絶対枠が転がり込んできた中島秀治が逆転Vに成功した。そして9月12日からのG III「宮島プリンスカップ」はエース機28号を引き当てた鈴木祐美子が予選トップ通過の大暴れ。自身初優勝も視野に入っていたが、準優では好枠インから5着敗退。予選2位通過の浅田千亜希も痛恨のS遅れで敗退し、準優勝戦で唯一好枠インから押し切っていた遠藤エミが優勝戦1号艇を獲得。この千載一遇のチャンス逃さずイントップSから速攻を決めて優勝。最後の最後にSGタイトルホルダーの貫録を見せつけたV劇にファンも酔いしれた。

(BR宮島専属記者・宮崎経督)



1枠の地元後輩に待った! 渡邊和将が鮮やかまくり差しV

8月22日から27日まで行われた「につぼん未来プロジェクト競走in徳山」は仲口博崇が優勝した。1枠で迎えた優勝戦では、5コースからまくり差した土屋智則にいったんは先行されたが、強力パワーを味方に大逆転で今年2度目のVを飾った。

8月30日から9月4日までは「デイリースポーツ杯」が行われた。シリーズを盛り上げたのは土屋南。抜群の出足を生かした全速戦で豪快に立ち回り予選を1位で通過。準優でもコマ02の踏み込みで速攻を放ち優勝戦の1枠をゲットした。だが、最後の最後に栄冠を勝ち取ったのは渡邊和将。こちらも機力はピカイチで、優勝戦では3コースからのまくり差して突き抜け今年初のV。徳山も初Vで21場目のV。全場制覇へマジック3となった。なお、1枠土屋はスタート遅れが響いて1Mでわずかに流れ気味のターンとなり2着に終わった。

9月7日からは「KRY山口放送杯」が11日までの日程で争われた。この節も女子レーサー西橋奈未がシリーズを牽引。ワースト級のエンジンだったが入念な調整で大幅な上積みにも成功してトップ級にまで仕上げた。準優ではインの湯川浩司をまくっての1着でベスト6入り。優勝戦は2枠で出場し、準V。「今節はタッチスタートもあってヒヤヒヤしたけど、ポロと言われたエンジン仕上げられたのは自信になりました」と得るものが多かったシリーズとなった。その西橋を抑えて優勝を果たしたのが小林泰。予選1位通過の好成績で優勝戦でも堂々の逃げ切り勝ち。約1年半ぶりの優勝となった。

9月17日からは4日間シリーズの「トライアングルカップ」。優勝は和田兼輔。9月に入って2度目のVで10月の記念あっせんに向けて勢いを付けた。

(日刊・測上)

8/22~27 につぼん未来プロジェクト競走in徳山

1	①	仲口 博崇 (52)	愛知	①	16	312111431
2	⑤	土屋 智則 (39)	群馬	⑤	14	361312422
3	②	石塚 久也 (43)	埼玉	②	19	221251151
4	⑥	飯島 昌弘 (51)	埼玉	⑥	19	434221522
5	④	大澤 風葵 (23)	群馬	④	07	121361322
6	③	宇佐見 淳 (43)	愛知	③	21	221314151
①⑤ 760円(4) ①⑤② 1730円(6) 抜き						

8/30~9/4 デイリースポーツ杯争奪戦

1	③	渡邊 和将 (34)	岡山	③	14	24125111
2	①	土屋 南 (27)	岡山	①	21	1131211
3	④	後藤 正宗 (46)	静岡	④	15	1232422
4	②	山崎 祥 (25)	山口	②	22	2221161
5	⑥	佐々木翔斗 (28)	大阪	⑥	27	3561242
6	⑤	大野 芳顕 (39)	福岡	⑤	17	2314322
③① 770円(3) ③①④ 2370円(9) まくり差し						

9/7~11 KRY山口放送杯争奪戦

1	①	小林 泰 (39)	東京	①	08	12311231
2	②	西橋 奈未 (28)	福井	②	12	31322141
3	④	岡村 慶太 (36)	福岡	④	15	34121152
4	⑤	湯川 浩司 (44)	大阪	⑤	14	51122232
5	③	今井 貴士 (40)	福岡	③	15	14233431
6	⑥	井上 忠政 (28)	大阪	⑥	17	23411212
①② 360円(1) ①②④ 1080円(2) 逃げ						

9/17~20 トライアングルカップ

1	①	和田 兼輔 (37)	兵庫	①	09	121121
2	②	中田 竜太 (36)	埼玉	②	08	113151
3	③	山田 祐也 (35)	徳島	③	07	311311
4	④	近江 翔吾 (31)	香川	④	05	113522
5	⑥	北野 輝季 (35)	愛知	⑥	13	641112
6	⑤	小野 勇作 (46)	佐賀	⑤	10	42132
①② 250円(1) ①②③ 680円(1) 逃げ						

下関



A1級ペースの柳内敬太 好調持続の“タナボタ”V

9月3日に開幕した「MNB R下関7th BOATBoyカップ」は良機を手にしたSG7冠の太田和美が予選をトップ通過。このまま一気にVロードを突っ走るかと思われたが、準優ではSで後手に回ってしまい、

8月20日開幕の「山口朝日放送ビープくんカップ」7日間ロングシリーズは畑田汰一と当地3連続Vを目指す地元谷村一哉が序盤から抜け出しデッドヒートを繰り広げたが、レース上位の畑田が予選トップ通過に成功。準優進出戦、準優勝戦としっかり逃げ切つてV最短に立ったが、優勝戦は波乱の幕切れとなった。イン畑田、2枠谷村、3枠中辻崇人の3選手がSで飛び出すも非情のF通告がなされた。代わってSで踏みとどまった柳内敬太と中村真が接戦となったが、2周1Mで柳内が中村を突き放して勝負あり。昨年9月の常滑以来、通算3回目の美酒に酔った。

9月9日に開幕した「ルーキーシリーズ第13戦」は予選トップの中亮太、2位の地元・島川海輝が準優で相次いで敗れる波乱が起きた。優勝戦1枠を手にしたのは今年3Vで一躍、ブレイクを果たした藤原碧生。ただ、V戦は一筋縄ではいかなかった。5コースから伸び仕様にした原田才一郎が握つて攻めると、これに藤原が抵抗気味にターン。空いた1Mに6コースから中野仁照が差しを入れたが、振り込んでしまい転覆。何とか先マイした藤原が通算4度目の優勝を達成し、最優秀新人戴冠へまた一歩前進した。

(西日本スポーツ・岡部)

痛恨の6着大敗を喫した。これで予選2位通過だった山本隆幸に待望のV戦1枠が転がり込んできた。優勝戦では2コース深川真二にSで先行されるも、なんとか先マイを果たして3月の桐生以来、通算52回目、当地では2連続Vを達成した。

9月2日～8日 8月のお盆戦からチルト3度が解禁されたことをアピールする意味合いもあり菅章哉、堀之内紀代子、阿波勝哉らチルト3度の使い手を呼んだ7日間開催。菅はよりよって前回使用者が石川真二のエンジンを引きつけない、前検日は頭を抱えていたのだが、自分の伸び型にたいたいたペラがレース中に出足型に戻ることで1マークまでは伸びて道中は出足が

8/20～26 山口朝日放送ビープくんカップ

1	⑤	柳内 敬太 (34)	兵庫	⑤	05	13222241232
2	④	中村 真 (51)	福岡	④	03	2222231312
3	⑥	平田 忠則 (47)	福岡	⑥	08	3413322312
F	③	中辻 崇人 (47)	福岡	③	+02	25114232111
F	②	谷村 一哉 (45)	山口	②	+01	11131332151
F	①	畑田 汰一 (25)	埼玉	①	+05	14112133121
⑤④ 450円(3) ⑤④⑥ 460円(3) 恵まれ						

9/3～6 MNBR下関7th BOATBoyカップ

1	①	山本 隆幸 (46)	兵庫	①	25	152151
2	④	金子 萌 (34)	静岡	⑤	22	21212
3	②	服部 幸男 (53)	静岡	③	24	311311
4	⑥	深川 真二 (50)	佐賀	②	16	521212
5	⑤	鈴木 博 (55)	埼玉	⑥	18	21242
6	③	佐々木和伸 (48)	徳島	④	24	24221
①④ 1110円(4) ①④② 2940円(9) 逃げ						

9/9～14 ルーキーシリーズ第13戦

1	①	藤原 碧生 (24)	岡山	①	10	256122111
2	⑤	原田才一郎 (27)	福岡	⑤	06	226152132
3	④	三村 岳人 (24)	岡山	④	66	51212422
4	③	倉田 茂将 (26)	愛知	③	09	321254511
5	②	飛田 江己 (23)	埼玉	②	13	133442131
転	⑥	中野 仁照 (22)	愛知	⑥	05	414311322
①⑤ 740円(3) ①⑤④ 3800円(15) 逃げ						

チルト3度の解禁記念!? 菅章哉がインから王道V



若松



菅章哉

9/2～8 西日本スポーツ杯

1	①	菅 章哉 (36)	徳島	①	05	12124121131
2	②	中辻 崇人 (47)	福岡	②	03	2154121151
3	⑥	守屋 美穂 (35)	岡山	⑥	11	46312322322
4	④	中島 昂章 (32)	佐賀	④	09	12212142162
5	③	宇佐見 淳 (43)	愛知	③	06	22212622211
6	⑤	吉田 俊彦 (46)	兵庫	⑤	11	31422255332
①② 240円(1) ①②⑥ 1320円(5) 逃げ						

9/10～14 ミッドナイトボートレース第42回日本財団会長杯

1	⑤	山本 修一 (44)	岡山	⑤	14	2414332
2	④	永田 啓二 (39)	福岡	④	06	1124132
3	②	杉山 勝匡 (35)	佐賀	②	14	1441241
4	③	川崎 智稔 (25)	岡山	③	16	2332241
5	①	平尾 崇典 (51)	岡山	①	11	1211131
欠	⑥	三川 昂暁 (35)	福岡			4134262
⑤④ 6230円(14) ⑤④② 29310円(49) 差し						

「8月26日～30日」地元の渡辺浩司や若屋周年でG1初優勝した入海馨、女子では田口節子らが主力の5日間シリーズ。初日に水原慎、2日目には大西賢と上位機を手にした伏兵陣の活躍が目立った。主力では渡辺や清水敦揮らがシリーズを引っ張っていたが、台風の接近により3日目中止となり、さらに天候の回復が見込めない状況だったため、3月末の開催に続いて今年2回目となる2日目までで中止打ち切りとなった。

「9月2日～8日」8月のお盆戦からチルト3度が解禁されたことをアピールする意味合いもあり菅章哉、堀之内紀代子、阿波勝哉らチルト3度の使い手を呼んだ7日間開催。菅はよりよって前回使用者が石川真二のエンジンを引きつけない、前検日は頭を抱えていたのだが、自分の伸び型にたいたいたペラがレース中に出足型に戻ることで1マークまでは伸びて道中は出足が抜群という、魔法のような仕上がりになった。エンジンは元々指折りの上位機だったこともあり、出足も伸びも抜群の節一パワ。一般戦で無双中の地元・中辻崇人やF休み明け初戦だった守屋美穂らを寄せ付けず、予選トップからの王道で今年6回目の優勝。A1級確保へ勝率も大幅にアップさせた。

「9月2日～8日」8月のお盆戦からチルト3度が解禁されたことをアピールする意味合いもあり菅章哉、堀之内紀代子、阿波勝哉らチルト3度の使い手を呼んだ7日間開催。菅はよりよって前回使用者が石川真二のエンジンを引きつけない、前検日は頭を抱えていたのだが、自分の伸び型にたいたいたペラがレース中に出足型に戻ることで1マークまでは伸びて道中は出足が

「9月10日～14日」5日間開催のミッドナイト。永田啓二と平尾崇典が文句なしの上位機を引き当てた抽選時点でシリーズ2強は決まったも同然。平尾は初日ドリム戦の時点で永田に「スタート後手ならまくられる」と思わせるほどの仕上がりで予選トップからの優勝戦1号艇。本来なら堅い本命だったのだが、最終日は安定板装着で2周戦の荒れ水面になってしまい、永田のまくりに応戦して共倒れ。展開を突いた山本修一が5コースから差し抜けて優勝した。

(スポーツ報知・井上誠之)



芦屋

V 確率100%！？ 小山勉が当地2優出2V



安河内将



小山勉

「第19回マリネテラスあしやカップ」の序盤に最も目を引いたのは安河内将の動きだった。初戦を前に大幅な整備。新ペラ交換になるアクシデントにも対応して、いきなり抜群の出足、回り足、そしてピット離れを見せた。それでいて伸びも下がらない状態で「これがこのペラのいいところ」と、ピット離れ仕様の弱点になりがちな伸びへの対処もできるペラに自信を持っていた。ただ「使えない場もある」とのことにご注意を。得点率争いをリードした佐藤博亮が予選最終走で6着。これが響いて4位に後退し、小坂尚哉が逆転でシリーズリーダーに。5日目は1Rから安定板を使用して3R以降は周回短縮。準優は10Rで芦屋のイン戦2連勝中だった小坂が岡村仁の差しに屈し2着、11Rは外枠両立で13万舟と天候と同じく荒れた。12Rの岡崎恭裕だけが逃げて優勝戦1号艇を得たが、最終日は台風の影響で

中止。幻の優勝戦となった。「ギラヴァンツ北九州カップ」で怒濤のピンラッシュを見せたのは田口節子。初戦に組まれた女子戦を難なく逃げると、ドリムをまくり差して快勝。そこからはまだ道が開けるように展開が向いて「今節はツイていますね」と本人も驚くほどだった。ただ強めの向かい風が吹いた準優12R、Sで遅れてしまいい2着での優出となった。鳥飼眞の大外まくりで18万舟が飛び出した11Rも1号艇の西野翔太が2着。この結果、10Rで唯一の逃げを決めた小山勉が優勝戦1号艇に。準優後には「3号艇のつもりだったんですけど。11Rであれ？ 12Rでもあれ？」とあって「とやや緊張した面持ちではあったが、優勝戦は堂々と逃げ切った。芦屋は2017年12月以来となる2度目の優出で、2度目のV。優出すれば優勝の好相性水面だ。」
(スポーツ報知・井上)

9/5~10 第11回ギラヴァンツ北九州カップ

1	①	小山 勉 (38)	埼玉	①	17	511214141
2	②	永田 秀二 (38)	東京	②	17	165115311
3	③	鳥飼 眞 (50)	福岡	③	11	324153231
4	④	河村 了 (40)	愛知	④	18	142314542
5	⑤	西野 翔太 (41)	広島	⑤	15	124132342
6	④	田口 節子 (43)	岡山	④	16	111111112
①②		510円(2)	①②③	2300円(8)	逃げ	

福岡



当地にめっぽう強い竹井貴史 7月戦に続き連続V！

昨年まで企業杯(GⅢ)は福岡ソフトバンクホークス杯で定着していたが、今年度からタイトル名が「アビスパ福岡杯」に変更となった。9月6日に初日を迎えた記念すべき大会には地元から池永太、塩田北斗、江夏満の3人が参戦。初日ドリム戦に選出されたものの、江夏は3日目のイン戦でライニングに散り、戦線離脱。池永、塩田とともに準優で3着に敗れ、優出を逃す結果となった。地元勢不在の優勝戦で1枠を勝ち取ったのは吉田裕平。最終日のスタート特訓では2本ともライニングを切っていたが、スタート展示でコマ04、本番はコマ11ときつちり修正。スリット足で勝る3号艇の杉山裕也の攻めをうまくけん制して、1Mを先取った時点で勝負あり。昨年12月に続く当地連覇を決めた。「(課題は)スタートだけだと思っていたけど、内が揃っていたのでしっ

かり自分のターンをすることができました」と笑みを浮かべた。最高の弾みをつけて迎えた次節のGIヤングダービーは、果たしてどんな結末を迎えているだろうか…。

9月15日から開催された「日刊スポーツ杯」にはSGウイナーが5人参戦。豪華な顔ぶれとなったが、2日目に得点率トップに浮上した吉川元浩が最後まで主役の座を譲らず、今年5回目の優勝。SG2冠を勝ち取った福岡水面でまた一つ勲章を加えた。
(スポニチ・鳥飼)

8月28日に開幕した「福岡ダービー第18回BOATBOYペラ坊シヨップ杯」は台風10号接近のため、5日間開催に変更となった。初日ドリム戦を制した竹井貴史が予選トップ通過を決めて準優、優勝戦も力強いイン逃げて勝利。7月の山笠特選レースに続く福岡連覇を果たした。

8/28~9/3 福岡ダービー第18回BOATBOYペラ坊シヨップ杯

1	①	竹井 貴史 (33)	福岡	①	11	4112241
2	③	山本 寛久 (48)	岡山	③	10	2261121
3	⑤	三川 昂暁 (35)	福岡	⑤	11	1145212
4	④	近江 翔吾 (31)	香川	④	18	1333112
5	⑥	石倉 洋行 (44)	福岡	⑥	09	3613362
6	②	山下 流心 (31)	広島	②	11	1123251
①③		310円(1)	①③⑤	1940円(7)	逃げ	

9/6~11 アビスパ福岡杯

1	①	吉田 裕平 (27)	愛知	①	11	143123111
2	④	梅藤 俊光 (37)	大阪	④	16	132124312
3	⑥	泉 啓文 (50)	岡山	⑥	29	311352452
4	③	杉山 裕也 (38)	愛知	③	13	113225131
転	②	武富 智亮 (35)	佐賀	②	12	621213151
妨	⑤	表 憲一 (46)	福岡	⑤	20	325311332
①④		380円(3)	①④⑥	4750円(14)	逃げ	

9/15~20 日刊スポーツ杯

1	①	吉川 元浩 (52)	兵庫	①	09	311122121
2	④	篠崎 仁志 (36)	福岡	④	10	222342212
3	③	枝尾 賢 (42)	福岡	③	16	352213111
4	②	中島 孝平 (44)	福岡	②	12	133113111
5	⑥	坂井 滉哉 (25)	福岡	⑥	03	153133542
6	⑤	柘植 政浩 (43)	滋賀	⑤	06	421231532
①④		550円(3)	①④③	1450円(6)	逃げ	



初優勝の地元水面 常住蓮が王道のイン逃げV

「トータリゼータエンジンアリング杯」は新エンジン導入シリーズ。素性が分からないエンジンの中から誰がいち早く仕上げ

「12回サッポロビールカップは、新エンジン導入節V機を引き当てた深川真二があっさり今年6回目の優勝を達成。初下ろしから2節連続Vの12号機は出畑、深川と乗り手もいいが、伸びも間違いなくエース機候補の1基だ。ファイナル3着の松村敏は連続優出を「15節」に伸ばした。

「BTS」三日月開設28周年記念」は昨年8月末から使用されてきたエンジンのラストシリーズ。出足とピット離れの良さに定評がある好素性機は魚谷智之が手に入れ、2節連続優出で乗り込んできた蒲原健太もパンチ力十分のエンジン。地元期待の常住蓮は中堅級ではあったが、そのないレース運びで着をまとめる。得点争いは魚谷と常住が大接戦。予選ラストの12Rを逃げた常住に軍配が上がった。準優は、堀本和也、魚谷、常住が逃げ切り、優勝戦の1号艇は常住が獲得。好ピット離れの魚谷と堀本が内確保を目指したが、インを死守の常住はスタートを張り込み速攻。今年3月22日の初優勝は地元一般戦を2コース差しだったが、2度目は王道Vで成し遂げた。

(報知 高木)

8/19~23 BTS三日月開設28周年記念

1	①	常住 蓮 (23)	佐賀	①	06	1413131
2	②	魚谷 智之 (48)	兵庫	②	07	12512221
3	⑤	杉山 正樹 (44)	愛知	⑤	11	33321212
4	④	北川 太一 (31)	佐賀	④	07	1214152
5	③	堀本 和也 (35)	徳島	③	06	1122421
6	⑥	上田 紗奈 (28)	大阪	⑥	19	6221142
①② 220円(1) ①②⑤ 710円(2) 逃げ						

9/1~6 トータリゼータエンジンアリング杯

1	①	出畑 孝典 (45)	福岡	①	10	151111111
2	④	山下 和彦 (55)	広島	④	17	211132142
3	②	金子 拓矢 (40)	群馬	②	04	342112131
4	③	中村 辰也 (36)	長崎	③	07	43413311
5	⑥	荒井 輝年 (50)	岡山	⑥	19	163413322
6	⑤	安河内 健 (29)	佐賀	⑤	15	132341212
①④ 830円(4) ①④② 2180円(9) 逃げ						

9/11~16 第12回サッポロビールカップ

1	①	深川 真二 (50)	佐賀	①	06	211132121
2	③	村岡 賢人 (34)	岡山	③	13	351323311
3	②	松村 敏 (40)	福岡	②	12	141114161
4	④	今泉 友吾 (34)	東京	④	13	131313152
5	⑤	藤田 浩人 (38)	佐賀	⑤	19	55162332
6	⑥	金子 萌 (34)	静岡	⑥	14	34443322
①③ 420円(3) ①③② 1180円(5) 逃げ						

てくるのか。快進撃を見せたのは12号機の出畑孝典で、5着に敗れたドリム以外は白星を量産。伸びも抜けた存在で、準優前のレースも5コースから伸びてまくり勝ち。8勝を挙げて優勝へ乗り込むと、最後まで2コースからトップスタートを放った金子拓矢を楽々伸び返してイン先マイ。3月の同大会に続く唐津連覇は今年4回目のVゴール。出畑は「励みになる」と福岡で初勝利を挙げた息子・孝成の活躍も刺激となり好調持続で、SGクラシック初出場が視界に入ってきた。

4カド豪快まくり一閃! 山川美由紀が約5年半ぶり美酒



大村

8/19~25 ミッドナイトボートレースin大村 4th

1	①	高野 哲史 (35)	兵庫	①	18	3121213131
2	②	杉山 裕也 (38)	愛知	②	12	2133111131
3	③	古澤 光紀 (36)	福岡	③	09	1313412151
4	⑥	山田 康二 (36)	佐賀	⑥	19	2151152112
5	④	大須賀 友 (37)	愛知	④	12	2114641212
落	⑤	安河内 健 (29)	佐賀	⑤	16	4213532312
①② 250円(1) ①②③ 740円(1) 逃げ						

9/6~11 オールレディース競走

1	④	山川美由紀 (57)	香川	④	16	421111132
2	①	寺田 千恵 (55)	岡山	①	17	251212511
3	②	浜田亜理沙 (36)	埼玉	②	19	251531621
4	⑤	長嶋 万記 (43)	静岡	⑤	19	131624122
5	③	松瀬 弘美 (54)	静岡	③	30	31443331
6	⑥	黒澤めぐみ (34)	東京	⑥	29	33341232
④① 1530円(6) ④①② 4440円(17) まくり						

9/14~19 デイリースポーツ杯

1	①	森永 淳 (43)	佐賀	①	11	21321141
2	⑤	塩田 北斗 (36)	福岡	⑤	11	431115632
3	②	平田 忠則 (47)	福岡	②	16	16123131
4	③	三浦洋次朗 (35)	愛知	③	16	114322441
5	⑥	重木 輝彦 (36)	兵庫	⑥	22	53143252
6	④	木場 悠介 (31)	長崎	④	16	31211432
①⑤ 540円(3) ①⑤② 1360円(4) 逃げ						

【8月19~25日】ミッドナイト開催。初日12Rで優勝候補とみられていた赤坂俊輔が妨害失格で脱落した。その被害を受けてエンストの山田康二は2日目からペラとギヤケースが換わって大幅なパワーダウン。そして、良機を引いた藤岡俊介も初日前半レースの転覆でペラ、ギヤケース、ピストンまで換わってこちらも明らかに舟足が落ちた。主力陣のアクシデントが続いた中、F休み明けだった高野哲史はうまく立ち振る舞って予選をトップで通過した。進出戦も準優も逃げて優勝戦はポールポジション。スタートでは後手を踏んだものの、先マイからきっちり押し切った。

【9月6~11日】予選トップは地元の滝川真由子。しかし、準優はターンミスもあって寺田千恵に差されて3着だった。また、準優9Rは1号艇の落合直子と2号艇の北村寧々がF。2周1Mで山口真喜子がターンマークに激突し、松瀬弘美と長嶋万記の静岡コンビでのワンツーとなった。10Rでは浜田亜理沙の3コースツケマイが決まり、山川美由紀は2着。この結果を受けて、予選6位だった寺田が優勝戦の1号艇となった。ただ、山川はダッシュ戦になったことにより調整を伸びに振った。スタートも決めて豪快なまくり一撃。2019年1月の鳴門オールの優勝を飾った。

(報知・長谷)